

カタクチイワシ瀬戸内海系群担当者会議議事概要

日程：令和6年5月1日（水） 14：00～15：00

会場：Teamsによるリモート形式

参加者：資源評価参画機関（以下、参画機関）、有識者（富山毅教授）、水産研究・教育機構（以下、機構）

<会議の目的>

令和5年12月15日に開催された、第2回資源管理方針に関する検討会（カタクチイワシ瀬戸内海系群）における議論に基づき、水産庁より受けたカタクチイワシ瀬戸内海系群に関する検討依頼への回答を協議する。

<水産庁からの検討依頼>

MSYベースの将来予測を過去にも実施していた場合、ABCの候補となる算定漁獲量はどのように評価されるのか、示していただきたい。

<機構からの説明内容の要点>

- カタクチイワシ瀬戸内海系群の令和5年度の資源評価結果および将来予測の方法に基づき、2010年以降の各年を評価最終年とした場合における算定漁獲量を試算した。
- 算定漁獲量としては、評価最終年の2年後の算定漁獲量である当初算定漁獲量、評価最終年の翌年の算定漁獲量である再評価算定漁獲量、評価最終年における算定漁獲量である再々評価算定漁獲量を試算した。
- 当試算において、2022年のみ再々評価算定漁獲量が当初算定漁獲量の上下90%の範囲（以下、90%区間とする）から外れる結果となった。
- 再々評価算定漁獲量は試算対象とした全ての年において再評価算定漁獲量の90%区間に含まれた。

<質疑応答の概要>

有識者：試算の背景は漁業者からの要望か、水産庁の要望か。漁業者が知りたいことだとすると、当初ABCの妥当性について知りたいということと思う。この試算について、今回の結果はどう解釈すべきか。

機構：漁業者から、ABCの不確実性が高いという意見があり、水産庁からの依頼はこれを受けてのものと理解している。

有識者：ABCの不確実性の評価をどうすべきか、このABCに基づくTACが設定された場合、獲りすぎや獲れなかった場合のリスクについてはどう評価するのか難しいと思う。

参画機関：先日の太平洋のSH会合では予測幅がない図が示されており、こちらの方が漁業

者には判りやすいと思う。将来予測計算では2年分の加入を予測してTACに対応する当初ABCが計算されることになる。この点、漁業者へしっかり説明し不確実性が高いという点について理解いただけるような解説をお願いしたい。

機構：基本的には機構からは90%区間も含めた図を示し、SH会合での説明資料は水産庁に一任しているが、要望は伝えたい。当初算定漁獲量は安定した値となるが、実際の加入は変動幅が大きい。こういったものを考慮することが一つのポイントとなると考えている。

参画機関：図1で、資源量の線と再々評価漁獲量との関係はどういう対応をしているのか。2021～2022年では資源量は横ばいだが2022年の再々評価の漁獲量は増えている。

機構：2021年の加入量が良かったため2022年の資源量も多くなった。2022年には、1歳魚が多く漁獲されたことから2022年の漁獲量が多くなったと解釈している。この点については再確認して後日回答したい。【会議後の確認の結果、上記の通りであったことが確かめられた。すなわち、2021年の加入の生き残りである2022年の1歳魚の資源尾数が多く、2022年の1歳魚の漁獲尾数も多かった。1歳魚は体重がより重いため、漁獲量は2022年で多くなった。一方で、2022年の資源尾数は全年齢で2021年より多いと推定されたが、資源に占める割合の大きい0歳魚の平均体重が2022年でやや軽かったため、資源量は両年でほぼ同じような値となった。】

参画機関：次のSH会合に向けて、太平洋系群でもシラスの取り扱いについての意見があり、自然死亡が大きいという説明が口頭であった。瀬戸内海ではシラスの漁獲も多いため、この説明については口頭の説明のみでなくスライドで示していただきたい。

機構：説明資料への要望については水産庁へも伝えてまいりたい。

<有識者講評>

今回の検討は、資源評価を行ってTAC管理をする上で漁業者にとって必要な議論であり重要な情報であると感じた。一方で、漁獲量で管理しMSYを目指して行うというアウトプットコントロールは、設定は可能であり数値として示されるため判りやすい反面、不確実性がある中で実施することの困難さもある。まずはこういった形でSH会合で議論しつつ、実施に向けて進んでいくものと思うが、将来的には漁業者が獲りながら年度途中でも状況を管理に反映できるような仕組みがあっても良いのではと思う。伊勢・三河湾のイカナゴの親魚の取り残し量を確保する管理のように漁獲しながら行政と共に終了期を検討するような方法など、良い方法を将来的に取っていければと思う。また獲り過ぎも魚価の低下などの原因となるため、引き続き望ましい漁業の形について考えていきたい。

以上